



1000年の歴史をもつ、畳づくり。
日本の伝統と技能を、未来へ残すために。

我が国で産声をあげた“畳づくり”。歴史は古く、1000年以上も前、飛鳥時代に畳が誕生していたという説もあります。日本人の暮らしに欠かすことのできなかった畳も、今では洋間が主流になり、徐々に存在感が薄れてきているのが現状です。「伝統の畳づくりを、若い世代へ広めていきたい」。そんな想いを込めてマイスター制度を活用する埼玉県畳高等職業訓練校の取り組みを紹介します。

ものづくりマイスター派遣先学校

■ 職業訓練法人 埼玉県畳高等職業訓練校

所在地	埼玉県さいたま市南区松本1-12-3	設立年	昭和44年
学科	畳科3年課程	学校長	山下 栄志
		在校生数	7名



当制度を活用し、畳業界を盛り上げたい。

「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

教える側の立場にいる、
職人たちの“誇り”も育てたい。

我が校は半世紀も前から、畳職人をめざす若者と、その指導者たちの育成を続けてきました。今回、厚生労働省から認められた「ものづくりマイスター制度」を導入したことによって、教える側の立場にある職人たちにも、より一層の自覚をもってもらいたいとの想いがあります。要請している全6名のマイスターは、元々当校でも指導をいただいている方々がほとんど。その全員が自分で畳商店を営む店主です。いまやその畳商店の大半は、生き残ることだけでも大変な時代。自ら新しいことを仕掛け、畳というものを世間へアピールする余裕はなかなかありません。しかし、それではこの業界の活性化はもとより、この業界を志す若者も増えてはいかない。だからこそ、まずはものづくりマイスターである中堅世代の職人たちに、マイスターに選ばれたという自覚と誇りをもってほしい。マイスターの情熱が受講生である教え子たちに伝われば、きっとこの仕事に夢をもってくれるはず。そして、私たちよりも若い世代の職人たちが、伝統的な畳づくりに新たな価値を見出し、世の中へと広めていってくれることに期待しています。



職業訓練法人 埼玉県畳高等職業訓練校
校長 山下 栄志さん

■ 実施したカリキュラム

指導の概要

実施回数：6回 受講者数：畳科7名
実施場所：埼玉県畳高等職業訓練校 実習室



プログラム内容

- 1回目 畳の寸法測定の方法(実測・製図・歪みの計り方) / 割り付け等
- 2回目 実測に基づき畳床・畳表の下拵え→完成
- 3回目 縁なし畳の製作、畳床・畳表の下拵え
- 4回目 縁なし畳の製作→完成
- 5回目 一畳本法 框曲 割り出し、畳床・畳表の下拵え
- 6回目 素框畳の製作 / 薄縁製作



教育プログラムの解説

畳づくりの基本的な知識については、3年間に及ぶ同校のカリキュラムで習得します。そのため、ものづくりマイスターからの指導は、技能検定2級の内容をベースに、より実践的なプログラムを編成。まずは技能すべての土台となる正しい測定方法から学び、縁なし畳づくりといった応用力を身につけます。また、手先を使って行う技能のみならず、畳職人として覚えておくべき知識や「なぜそうする必要があるのか?」という背景までを教えています。

座談会 INTERVIEW

ものづくりマスター × 受講生
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター（写真_後列1番左）

柿沼 日出美さん

昭和36年生まれ
平成13年度 1級技能士「畳製作(畳製作作業)」取得
平成27年度 厚生労働省 ものづくりマスター「畳製作」認定

埼玉県熊谷市で畳商店を営みながら、マスターとして指導も行う。同校との付き合いは長く、20年ほど前から学生のインターンを受け入れている。

受講した若手技能者（写真_前列中央）

佐藤 高広さん | 畳科3年生

実家は埼玉県にある畳商店。父の後を継ぐために、同校で技能習得に励む。想像以上の畳の重さに苦戦しながらも、インターン先で日々奮闘中。

基礎を守ることが、 自分を守ることになる。

柿沼さん 当校とのお付き合いは、マスターになる以前から続いています。生徒のみなさんは、2年生から住み込みでの現場実習が始まります。私のお店でも毎年のように学生をインターンで受け入れ、一緒に働いています。ですので、マスターになったからといって、特に気持ちは変わりませんね。もう2人とも実習がスタートしていると思うけど、どうかな？

佐藤さん いやあ、現場で叱られてばかりですよ(笑)。最初はもう畳が重くて、運ぶだけでも大変で。畳の扱いはもちろん、道具の使い方一つひとつを徹底的に指導してもらっています。

浜尾さん 僕も失敗ばかりですね。入学当初は学校の廊下で畳を運んでいたら、電球にぶつかり、ガシャーンとやっしまいました…。

熊木さん 最初は誰もが怒られながら仕事を覚えていくもの。でもやっぱり怒られたくないからさ、そこから「どうす

れば上手くいくか？」を自分の頭で考えだすものだよ。

柿沼さん 私も実技指導の中では、道具の扱い方や正しい動作といった基礎は徹底します。なぜなら畳職人は、切れ味の鋭い畳包丁を扱うから。畳はカットしてしまったら、もう元には戻せない。それ以上に、一歩間違えれば大けがをするからね。厳しさはやさしさ。自分を守るためにも必要なことなんだ。



型を知らなければ、 畳はつくれない。

佐藤さん 僕の実家は畳屋で、小さい頃からそばで見えてきたつもりですが、学んでみると知らないことばかり。例え

ものづくりマスター（写真_後列1番右）

熊木 義幸さん

昭和46年生まれ
平成9年度 1級技能士「畳製作(畳製作作業)」取得
平成27年度 厚生労働省 ものづくりマスター「畳製作」認定

柿沼マスターと同じく、学校とは20年来の付き合い。見た目は寡黙な職人タイプだが、生徒たちの成長をやさしく見守る。埼玉県川口市で畳商店を営む。

受講した若手技能者（写真_前列右）

浜尾 将希さん | 畳科2年生

福島県出身。曾祖父の代から続く、家業の畳床づくりを手伝う中で、自然と畳職人をめざすように。今後の目標は、技能検定2級の取得。

ば、測定ひとつにしても、ここまで重要なことだと思っていなかった。

柿沼さん 図面どおりに、ぴったりとつくるのは難しい。まずはそれより前に、正確な測定ができていないと、上手く仕上がりに。最初は、測定だけでも四苦八苦する。次に作るという工程では、材料となるいぐさの性質も知らないといけない。水に濡らしすぎると変色してしまうし、水分が足りないで折ることができない。こういった知識がないと、畳づくりはできないからね。

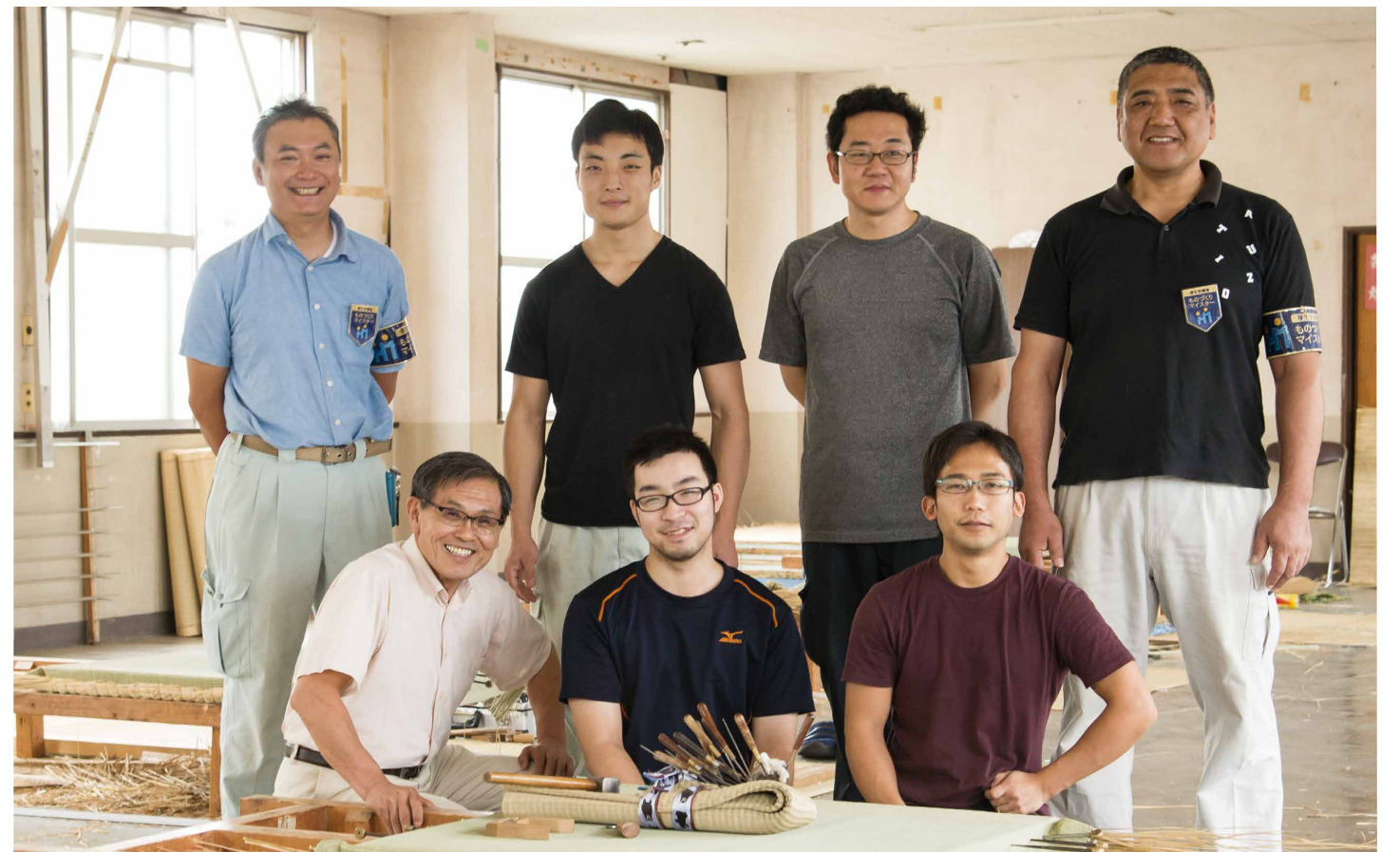
浜尾さん 思っていた以上に、覚えることがたくさんあって大変…。その分、上手く仕上がってピッタリと畳が収まったときには、思わず「よしっ！」と心の声がかげやいます。

柿沼さん そう、きれいに収められるかどうか、職人の腕の見せどころ。その精度を上げるには、今やっている技能と知識をコツコツと磨いていくしかないんだ。

熊木さん 畳づくりは歴史が長いだけあって、奥が深い。畳の一枚一枚が部屋に合わせた大きさでつくられていることや、畳を置く向きも動線などによって

テーマ

当制度を活用し、畳業界を盛り上げたい。



まずは、守破離の“守”を大切に。 伝統を学び、型を知ることが第一歩。

変えられていることも。僕たちにとっては当たり前だけど、一般的には知られていない。むしろ今では、建設会社の設計士さんですら知らないケースも多いからね。まずは畳づくりの型みたいなものをしっかり学んで、君たちが畳の伝統を守ってほしいと思います。

これまでの常識を破り、 これからの畳を考えよう。

熊木さん 現代の暮らしは洋風が中心になっています。そんな背景があるからこそ、逆に畳へ求められる期待は高まっている。“神社仏閣といった歴史的な建造物”は当然ながら、“洋風造りのしつらえにモダンな和室をつくりた

い”といったオーダーは増えています。

佐藤さん 今回の実技指導でも、“紋縁(もんべり)”や“縁なし”といった畳をつくるのは、そういった背景を見据えてだったんですね。

柿沼さん そうだね。紋縁の畳は神社仏閣に使われるし、縁なし畳はモダンな佇まいにもじっくりくる。まずは基礎を学ぶ時期だけど、「こういうものがあるんだ！」という、畳のいろいろな可能性を知っておいてほしい。

浜尾さん 僕は技能の応用として取り組んだ、座布団づくりなんか楽しかったですね！あ、すみません。畳じゃないですね…。

熊木さん 畳づくりの技能を極めつつ、どう応用していけるか考えるのもいいこ

とだよ。世の中では和室が減ってきているけど、海外からは“畳=和=日本のものづくり”といった目で見られています。学んできた基礎的な技能と、君らのような若い感性を活かして、広い視野で畳を考えてほしい。ぜひとも、“畳の新しい在り方”を見つけてもらいたいですね。

